

西濃農林事務所の普及活動状況

平成28年9月30日現在

今月の重点活動

■トマト 就農支援センター第2期生の定植作業始まる

9月1日よりトマト就農支援センター第2期生の定植作業が始まった。第2期生は、3組(4名)が、海津市(海津トマト部会員)に就農し、農業普及課としても重点的に週2回の巡回支援を行っている。作業の時間割(明確化)、生育状況の把握とそれに伴う養液管理(EC、給液回数、排液率)、給液のチェックと洗浄を各自が自ら意識して実行するように助言を行っている。定植から3週間程度経過したが今のところ生育は順調である。今後も適切な給液管理等を就農支援センターと連携し助言を行っていく。



【定植作業の様子】

活力ある新産地づくり

■ブロッコリー 定植の開始

ブロッコリー定植が8月末から始まった。しかし、9月10日以降は断続的に降雨があったため、排水が悪い地区では畝立て作業が行えず、全般的に定植は遅れ気味である。

西濃地域では、今年の栽培面積は昨年より17%増の30haを計画しており、11月初旬から2月末までの出荷予定であるが、今年は今明け出荷量を増やす計画としている。農業普及課は農家を巡回し、早期定植に向け、ほ場の排水及び適期定植の指導を行った。



【定植の様子】

多様な担い手づくり

■指導農業士 農業大学校学生派遣学習受け入れ 海津市、神戸町

9月12日から一週間、海津市の指導農業士(トマト)が農業大学校1年生1人の受け入れを行った。派遣学習ではトマト栽培管理の実践の他、就農支援センターのポット耕栽培を視察する等、幅広い指導が行われた。農業普及課と農業大学校は受け入れ現場を訪ね情報交換した。

また農業大学校2年生も派遣学習で受け入れている。海津市の指導農業士(いちご)のもとで学生1人、神戸町の指導農業士(葉菜)のもとで学生2人が9月20日から10月22日まで学習する。派遣学習初日に農業大学校は各受け入れ農家にて農業普及課立ち合いで派遣学習出発式を行った。



【派遣学習状況確認】

売れるブランドづくり

■水稲 収穫状況 全域

西濃管内では「コシヒカリ」等早生品種の収穫に続き、中生品種の「あさひの夢」の収穫が行われている。収穫された早生稲の品質は良かったが、中生稲は9月中旬以降の天候不良で収穫作業は計画より遅れている。晩生の「ハツシモ」の出穂期は平年並みとなり、「あさひの夢」の後に収穫を行う。

また、管内各地で水稲新品種「縁結び」等の試験栽培が行われ、栽培特性と現地適性を検討するため、JAにしみのと農業普及課は生育調査、収量調査に取り組んでいる。

■大豆 (生育状況) (全域)

8月下旬よりハスモンヨトウの食害が散見されており、9月15日に病虫害防除所から注意報が発表され、大豆を作付している営農組合を中心に注意喚起を行った。

また、外来アサガオ類やホオズキ類による被害も広がっており、養老町北部では帰化雑草「ヒロハフウリンホオズキ」対策として、関係機関と連携して除草剤『ロロックス水和剤』による散布試験を行った。今後、除草効果を検証していく。

■きゅうり 抑制栽培の出荷開始

9月5日に抑制栽培巡回及び研究会が開催され、農業普及課から害虫の発生状況について情報提供するとともに、黄化えそウイルスの迅速診断技術の実演を行った。今後も巡回で迅速診断技術を利用して黄化えそ病の診断を実施していく。

9月12日から出荷が始まり、生育は平年並みで推移している。うどんこ病、黄化えそ病の発生が若干あるものの平年並みの発生状況である。促成栽培は、9月20日から定植が開始される。

■ナバナ 播種作業の省力化を支援

海津ナバナ部会では9月に入り定植に向けた育苗が開始されている。

セルトレイ、地床による育苗が主体であるが、省力化のためシーダーテープを用いた直播栽培が一部(約1割)で導入されている。農業普及課では播種機の効率的な活用や、発芽率の向上、その後の栽培管理について支援を行っている。栽培者の高齢化が進み、播種機の取り扱いが困難で播種作業が重労働となる場面があり、今後の検討事項となった。

■加工用キャベツ 試験栽培始まる 安八町、輪之内町、神戸町、大垣市

8月末から加工用キャベツの定植が行われた。今年度から神戸町で4組織、輪之内町で1組織、大垣市で2組織が試験的に導入を行う。また、輪之内町においては1条植えの試験栽培も行っている。

9月中旬からの多雨、低日照と台風16号接近の影響、さらにハスモンヨトウ注意報の発表も有り、農業普及課は湿害対策と虫害対策の栽培管理指導を行っている。



【定植作業の様子】

■関ヶ原そばの栽培技術の確立支援(関ヶ原町) そば肥料試験ほの播種作業

関ヶ原町では、営農組織による転作作物としてそば栽培を推進しており、栽培面積も27年度比で126%(8.9ha)と増加させてきている。品種は「信濃1号」を基軸とし、実需者要望に合わせ、「常陸秋」の導入を進め、28年度は1.6haを栽培することとした。

新たな品種の導入に合わせ、(追肥)作業の省力による低コスト化を検討するため、肥料試験(エコレット048)を実施している。8月中旬に肥料散布を行ったほ場に、8月25日に播種作業を行った。今後、生育状況を観察するとともに、収量等調査を行い、有効性等を検討していく。



【播種作業】